

生産性向上のための取り組み

R7.6月

業務改善活動

改善 CASE 1

バイタル測定において看護職員により、一度紙媒体に数値を記入し専用アプリに数値を入力する作業をおこなっていたが、パットを数台導入し測定数値をその場で専用アプリに入力をおこなう。

通所 介護	
文書量削減	☒
ICT	☒
カイゼン	☒
人材育成	☐
介護ロボット	☐

社会福祉法人博愛会 共生型サービス 暖家Withキッズ

成果

質の向上

一度紙媒体に数値を記入し専用アプリに数値を入力する時間をその場でパットに入力することにより時間削減ができるようになった。

量的な効率化

過去の数値もパット内のアプリを開くことで、利用者の健康状態を職員間で共有することができるようになった。

解決のステップ

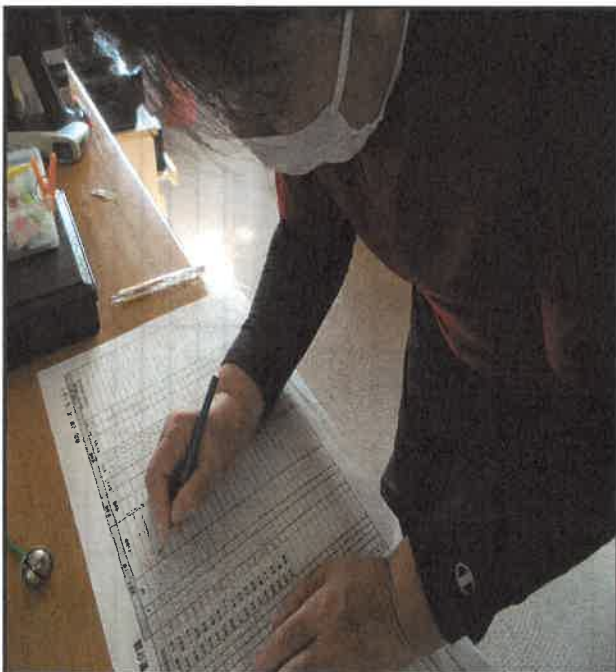
一度紙媒体に数値を記入しさらにPCの専用アプリに入力する作業自体負担があるのではとの意見があった。

入力作業の時間を見直すとともにパットを数台導入し測定値をその場で入力することで時間のロスを省くことができるようになった。

課題の見える化

【 ☒ 課題抽出 ☒ 構造化 ☐ 調査 】

Before



After

